



自分の小さな良さに気づく

この塾では中学生の春期講習は理科・社会の復習だけを集中的にやっています。そんな中で歴史上の人物のまとめをしていると、「その人はいい人なの、悪い人なの」と聞いてくる人がいます。「そんなことはわからない。たとえ歴史的に見れば評判が悪くたって、別の立場から見ると良かったと思えることをしていたり、周囲の人から愛されていたりするかもしれない。そもそも歴史上の評価も後から変わることがいくらだってある。一面的に決めつけること自体がよくないこと。」と説明しています。

こういう決めつけ方を実は自分で自分にしてしまっただけではありませんか。「どうせ自分にはできない。自分はダメな人間だ。」とすぐに思い込む人。逆に「自分はやればできるはずで、今はやっていないだけ。」と居直る人。周りと比べて自分は全然かなわないと思うことは誰にでもあることです。面接で「自分の長所と短所を教えてください」と聞かれると、短所はすらすら言えても長所を言うのは何だかウソっぽい感じがして言えない人も多いのではないのでしょうか。

ある卒業生が中学生の頃、急に成績が伸びた時期がありました。そのずっと後になってどうしてなのか聞いてみたことがあります。その答えは「自分でもよくわからない。でもあの頃自分でやろうと決めたことだけは全部やったからではないか。」ということでした。進んで発言したり質問したりするタイプではなく地味な存在だったのですが、あれこれ言い訳を考える前に実行する、それが彼の良さなのでした。

人のことは「いいなあ」と憧れたり羨ましく思ったりしても自分のことは見えないものです。だから自分の長所を知るには、まずは自分の“小さな良さ”に気づくこと。例えば、自分を支えてくれている家族やちょっとした気配りをしてくれる友だちなどに感謝する自分がいる。それだけでもその人の良さです。小さくても肯定的な経験を積み重ね、前向きな態度をじわじわと築き上げていきませんか！そのことが行動する勇気につながるのです。